

FAZIOLI

ファツィオリジャパン15周年記念コンサート

Vadym Kholodenko Piano Recital

L.v.ベートーヴェン L.v.Beethoven

創作主題による6つの変奏曲

Op.34 へ長調

Variationen über ein eigenes Thema F-Dur Op.34

F.ジェフスキー F. Rzewski

「不屈の民」による36の変奏曲

(原題:「団結した民衆は
決して敗れることはない」)

The People United Will Never Be Defeated

ウクライナ出身の若き巨匠が祖国に捧げる
ジェフスキー「不屈の民」変奏曲

The People United
Will Never Be Defeated

2023年 **12/5 火** 開演 19:00
(開場 18:30)

豊洲シビックセンターホール(5F)

チケット 全席指定 一般 5,000円/学生 3,000円/車椅子席 1,000円 (車椅子席は豊洲文化センターのみ取り扱い)

先行予約 6月23日 (e+, チケットぴあ、ファツィオリジャパン(株)のみ取り扱い) 発売開始 7月9日

チケット取扱
お問い合わせ

- e+ (イープラス) <http://eplus.jp>
- チケットぴあ <http://t.pia.jp> (Pコード245-424)
- 豊洲文化センター Tel:03-3536-5061 9時~21時(休館日第2・4月曜日)
HP(24時間):<https://www.kcf.or.jp/yoyaku/ticket/>
- ファツィオリジャパン株式会社 https://fazioli.co.jp/inquiry/vadym_recital.html

チケット
申し込み
はこちら



■主催:ファツィオリジャパン株式会社 <http://www.fazioli.co.jp> ■支援:公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 豊洲文化センター
■後援:一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ピティナ) ■協力:株式会社日本アーティスト

ヴァドイム・ホロデシニコ
ピアノリサイタル

©Ira Polyarnaya

ホロデンコ自らの心情を重ね合わせる《「不屈の民」変奏曲》 そのリアルなメッセージをぜひ感じていただきたい

道下京子

世界で脚光を浴びるヴィルトゥオーゾ、ヴァディム・ホロデンコの4年ぶりの来日が決まった。

1986年ウクライナの首都キーウ生まれ。2010年の仙台国際音楽コンクールでの優勝をきっかけに広く知られるようになり、2013年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝後は、世界中からオファーの絶えないピアニストとなった。

2023年12月に行なわれる東京・豊洲でのリサイタルは、伝統を受け継ぎかつ独創性にすぐれたホロデンコらしいディープな選曲で、変奏曲を軸としたプログラムである。ベートーヴェンが、いわゆる「ハイリゲンシュタットの遺書」をしたためたのは1802年。《創作主題による6つの変奏曲》は、同年に作曲された。へ長調の主題は、変奏ごとに3度下に転調し、へ長調で結ばれる。続くジェフスキー《「不屈の民」変奏曲》は、へ長調と同じ調号の二短調で始まる。「不屈の民」は、オルテガによって作曲されたチリの革命歌。ジェフスキーは、「不屈の民」を主題とした36からなる変奏曲を1975年に書き上げる。ホロデンコが、劇的で強い緊張感に満ちたこの作品を演奏し続ける理由は、想像に難くない。この曲は、直近の彼のアルバムにも収められている。第36変奏では、5分以内の即興演奏によるカデンツァも認められている。

圧倒的な超絶技巧から繰りひろげられるホロデンコの音楽は、高度に洗練されており、同時に強い情念にあふれている。筆者は、翳りを帯びた重い音に深く魅せられた。彼はこれまで、ベートーヴェン作品において揺るぎない構築感を披露し、聴く者に深い感動を与えてきた。そして、《「不屈の民」変奏曲》に、ホロデンコは自らの心情を重ね合わせ、作品のメッセージをリアルに描き出す。

欧米の一線で活躍し続けるホロデンコの芸術を、日本のみなさまにもぜひ聴いていただきたい。

「秀でた音楽性、完璧な技術と洗練された深い音の陰影、輝かしく想像豊かな解釈」

クリーブランド・プレーン・ディーラー 紙

若き巨匠： ヴァディム・ ホロデンコ Vadym Kholodenko

1986年ウクライナ、キーウ生まれ。M.ルイセンコ記念キエフ音楽中等学校でナタリア・グルイドネフとボリス・フョードロフに、2005年よりモスクワ音楽院で名教授ヴェラ・ゴルノスタエヴァに師事。2004年、18歳にしてマリア・カラス国際音楽コンクールでグランプリを受賞。2010年第4回仙台国際音楽コンクール優勝、2011年シュペルト国際ピアノコンクールでの優勝に続き、2013年にはヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで圧倒的な優勝を果たすと共に、最優秀室内楽賞と最優秀新作賞も獲得。その「秀でた音楽性、完璧な技術と洗練された深い音の陰影、輝かしく想像豊かな解釈」で「新星現る」と世界的に大きな注目を浴びた。2019年開催の第7回仙台国際音楽コンクールに、同コンクール優勝者としては初めての審査委員に抜擢され、2024年も同審査委員を務める予定。

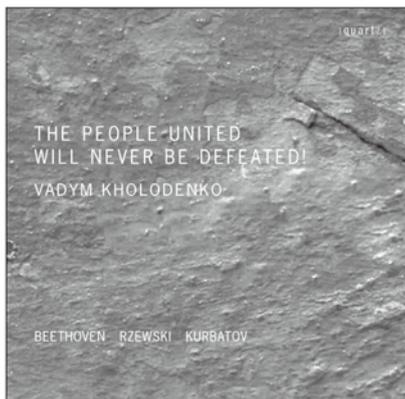
ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝直後の2014年に、フォート・ワース交響楽団にとっては初の「パートナー・アーティスト」の地位を与えられ、同交響楽団と3年の間プロコフィエフの全協奏曲の演奏とCD録音を行った。2013年にはマリンスキー・コンサートホールのレジデント・ピアニストとなる。

全米の各地で頻繁にリサイタルを行うとともに、ヨーロッパ各国の主要オーケストラとの共演、ソロリサイタルに招聘され、ヨーロッパの基盤も確立してきた。2020/21シーズンにはアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団、2021/22シーズンにはSWR南西ドイツ放送交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスを務めた。ワルシャワの「ショパンと彼のヨーロッパ音楽祭」には毎年出演している。中国、台湾、日本、シンガポール、マレーシア、南米など世界各地でリサイタル、オーケストラのソリストとしてツアーを行い、「最も才能のある現代のピアニストの一人」との評価を得ている。

2022/23シーズンは北米、中南米ツアーのほか、シンフォニア・ロッテルダムとのオランダ国内ツアー、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とカリナ・カネラキス指揮でプロコフィエフピアノ協奏曲第3番を、サツシャ・ゲッツェル指揮フランス国立ロワール管弦楽団とプロコフィエフピアノ協奏曲第2番を共演する。ラインガウ音楽祭ではチェリスト、アナスタシア・コベキナと共演するほか、イギリス、デンマーク、フィンランド、イタリアその他、各地でコンサート活動を行う。2023年12月には来日公演が予定されている。

フレデリック・ジェフスキーの「不屈の民」変奏曲の新譜は2023年1月にグラモフォン誌のエディターズ・チョイスを受賞した。Fazioliホールで録音した「オール・スクリャーピン」のCDは、世界的に権威あるフランスのCD評論誌「ディアパゾン」の2018の年間優秀賞を受賞。これまで出したCDはいずれも高く評価され、荣誉ある賞を受賞している。2013年にはハルモニア・ムンディから「純金」と称されたリストの超絶技巧練習曲全曲を含むCDがリリースされた。
(公式サイト: <http://vadymkholodenko.com>)

©Ira Polyarnaya



ヴァディム・ホロデンコ 最新盤 |quartz| ジェフスキー：「不屈の民」変奏曲！

「団結した民衆は決して敗れることはない！」

ベートーヴェン：ヴァニツキーのパレエ《森の乙女》のロシア舞曲による12の変奏曲 WoO.71
フレデリック・ジェフスキー：《不屈の民》による36の変奏曲 (12月5日 豊洲シビックセンター公演で演奏予定！)
アレクセイ・クルバトフ：最後の3分間(世界初録音)

ヴァディム・ホロデンコ(ピアノ) / QTZ 2149

「レコードは通常、発売後にそれぞれの人生を歩み始めるものです。しかし、この作品はたまたま特別なもので、発売の段階に至るずっと前に、まさにその意味を獲得していたのです。
—— ヴァディム・ホロデンコ
2021年9月サント・ペテルブルグにて、ファツィオリF308で録音